

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和元年五月度 入選句 (投稿総数二千二百六十七句・小中学投句数千六百五十五句)

特選

こいのぼりいぶきの風でおなかいっぱい 大垣市 伊藤 麻央(小三)

俳句は五・七・五の十七音と習いますが、この句は下五が七音と字余りになっています。しかし、この字余りが、鯉のぼりの満腹感をうまく読者に伝えてくれました。思い付いた言葉をそのまま使ったことで、伊吹山からの風をほらみ、生き生きと泳いでいる鯉のぼりの姿を表現してくれました。小学校三年生の作者。

潮干狩りバケツの底がまだ見える 大垣市 富岡 茜音(小五)

潮干狩りをしている作者。満足していない様子が「まだ」で表現されています。潮干狩りは、大潮の引き潮時が良いとされています。ここから「潮時」という言葉が生まれました。現在は、「引き際」とか「終りの時」などに使われていますが、本来は、「物事をするのにちょうどよい時」をいいます。「テストで百点とった今が、母に臨時のおこづかいをもらおう潮時だと思う」などと使います。

この作者、バケツ一杯の貝を採る事ができたのでしようか。

祖父の庭そのまま食べる夏野菜 大垣市 加藤 心羽(小六)

もぎたてを、その場で食べる野菜の味は、本当に美味しいものです。祖父の庭の夏野菜ならなおさらです。「そのまま食べる」の表現からは、安心と信頼が読み取れます。きつと、優しくて逞しいおじいちゃんが、愛情たっぷりに育てたのでしよう。この作者も、夏野菜のように、元気にすくすくと成長することでしょう。

秀逸

さくらちるびんくのあめがふっている 大垣市 河合 結愛(小二)

春の風われた口びるなおりかけ 大垣市 加納 都和子(小四)

しゅくだいであたまの中は青あらし 大垣市 金森 恵世(小四)

新学期勇気を出してりっこうほ 大垣市 酒向 結埜(小五)

大好きな祖母が作ったたけのご飯 大垣市 丸井 彩夢(小五)

春の空じいちゃん空から見てるかな 大垣市 加代 昊大(小五)

はざくらがかぜにゆられてフラダンス 大垣市 たに さゆき(小二)

ミンミンふうりんたちがおどってる 大垣市 田口 芽依(小四)

ひまわりがサングラスかけわらってる 大垣市 伊藤 希彩(小六)

水しぶき飛んできそうなこいのぼり 大垣市 平田 ひなの(中二)

入選

さくらの木昔の人も見たのかな
 海津市 川村 麻衣(小四)
 いつかかぶとがにあらう男になりたい
 大垣市 田中 ひろ(小二)
 目ができた早く会いたいチビメダカ
 大垣市 はた そうたろう(小二)
 みつばちがれんげばたけでだんすする
 大垣市 清水 かな(小二)
 くさむしりなめくじけむしだんごむし
 大垣市 吉川 宗李(小三)
 たおれてもまけずとおきるたんぼぼだ
 大垣市 新川 留那(小五)
 落ちそうで落ちない花はふじの花
 大垣市 吉川 史恩(小六)
 いちごがりおなかいっぱいへたいっぱい
 大垣市 まつ田 りあ(小二)
 ははのひだきようはいちにちてつだうぞ
 大垣市 板山 輔孝(小二)
 運動会シートの上にてんとう虫
 大垣市 あらい ひなた(小四)

入選

ふきのとうゆきのふとんからこんにちは
 大垣市 栗田 あおい(小四)
 しゅんらいよ何をそんなにおこってる
 大垣市 高坂 奏斗(小四)
 倉庫からやっと出れたよこいのぼり
 大垣市 服部 瑠花(小五)
 たけのこののびる早さにまけないぞ
 大垣市 進藤 孝志郎(小五)
 泳げない生まれたばかりこいのぼり
 大垣市 竹内 啓太(小六)
 運動会 父は私の応援団
 大垣市 遠藤 來花(小六)
 ネモヒラがたくさんさくと海みたい
 大垣市 種村 結月(小三)
 母の日におてつだいけんつくったよ
 大垣市 鹿野 由衣(小三)
 たんぼぼはへんなところにくんだよ
 大垣市 上田 奏(小三)
 たんぼぼがきいろいかおでわらってる
 大垣市 高田 結愛(小二)

選者吟

色づいてトマトのトマトらしくなる

せいじ